

**第 1 回西脇小学校校舎基本計画専門部会会議録概要版**

- ◇日 時 平成 26 年 3 月 19 日 (木) 15:00~17:30
- ◇場 所 西脇市まちづくりセンター 2 階 会議室 1
- ◇出席者 検 討 委 員 ; 足 立 裕 司、難 波 尚、足 立 博、石 塚 喜 行  
事 務 局 ; 前 田 朝 一、北 谷 修、池 田 正 人
- ◇配布資料
- ・西脇小学校校舎基本計画専門部会 (第 1 回) 次第
  - ・検討委員会条例
  - ・検討委員会傍聴要綱
  - ・西脇小学校校舎整備着手までのスケジュール
  - ・学校配置図

## 開 会

- <事務局> 西脇市立西脇小学校校舎基本計画検討委員会専門部会を開始します。  
さっそくですが、委嘱書を交付させていただきたいと思います。
- <教育長> 委嘱書交付 検討委員会で委嘱書を交付している足立委員以外に交付
- <教育長> あいさつ
- <事務局> 各委員紹介
- <事務局> 部会長の選出 足立裕司委員を部会長に選出

## 議 事

- <部会長> 第 1 回検討委員会において、委員である西脇小学校の校長先生から、校舎の使い勝手上の問題点についてご意見をいただきました。委員からも安全・安心についてご意見があり、このことは建築物が必要とする基本的な要件であることから無視することはあり得ないため、保存に関する検討の中では一番大切な要素であると考えています。もう 1 つは、使い勝手等の問題となり、実用性や学校教育施設としてどのように利用できるかという事も含めて考えて行かないといけないので、場合によってはオブザーバーを適宜呼びすることもあり得ます。この専門委員会では全般的な問題点を洗い出していきたいと思っています。

安全性に関する耐震基準上の問題ということで、構造診断書の要点等をお話しいただければと思いますのでお願いします。

- <委 員> 耐震診断の評価データにより説明
- <部会長> 積載耐力は廊下と教室を分けて、何キロなのでしょうか。
- <足立委員> 1 キロニュートンとなります。
- <部会長> これは学校の計算基準なのですか。
- <委 員> 一般住宅でもこれだけは必要であり、ここに表示している 1100 と 2100 の違いが出てきます。

- <部会長> 屋根は瓦棒になっており、㎡あたり80kg程度は有利になっていると思います。基礎は南棟の外周だけが布基礎で、廊下側の基礎が分断されているということです。
- <委員> はい。しかし、写真がないので最終的な確認ができていない部分もあります。
- <部会長> そこは、図面を信用してもいいとも考えられます。
- <委員> しかし、布基礎の調査結果について、間違いかも知れませんがどこも途切れてないことになっています。尚且つX1と2間には、布基礎はないはずで、X8とX9についても布基礎はないはずなので、どの部分を信用するかといったことになります。
- <部会長> 確かにそうですね。梁行方向は疑問がありますね。
- <委員> またY3通りにつきましても、この16ページのY1・Y3のX5・6間は入れ間違いです。
- <部会長> その点につきましては、もう一度確認しないといけない部分がありますね。  
通し柱と管柱がありますが、ブレースの入っている所は管柱になっていて、通し柱のある所は土壁なのですか。
- <委員> 14ページの2階の床伏図で、丸印が入っているのが通り柱となります。
- <部会長> 資料にある合成梁の様な、二重になっている部分は、高さはどのぐらいあるのですか。
- <委員> 報告書のページ34を見ていただくと、梁の図面がありますが、高さについて記載がありません。
- <部会長> 神戸大学の武道場も同じ様な工法です。昭和10年に建っていますが、上下に胴差しの様な梁が2本通っており、その間に束がいっぱい立っており、それを固めてしまうと合成梁としては、巨大となる有利差も可能性としては考えられます。
- <委員> つまり③と④とは、全く違うという形ですね。
- <部会長> 偏芯率の計算はされているのでしょうか。
- <委員> 計算してあります。
- <部会長> 偏芯の計算の時に小屋組みとなる2階天井構成は、基本的にブレースがあるだけの計算なのでしょうか。
- <委員> 判定委員会でゾーニングし、検討しなさいという指示があったようで、再度ゾーニングの分だけ計算されているようですね。
- <部会長> それは南棟の中でのゾーニングということですか。
- <委員> そうです。3棟ともゾーニングし、検討している形にはなっています。
- <部会長> 普通2階床は床張りがあったり、梁があったり、根太があったりするので、剛性は値としてできます。床そのもので計算する方法について、アメリカなどではよくそういう計算をすることがあります。2階天井は竿縁天井等剛性があまりないことが多いのですが、ブレースが貼られることがあります。今回は火打ち梁だけですので、ブレースを貼ることは可能だと考えられます。これは経験値なのですが、トラスに貼ってある野地の上に合板をはると、意外にガチガチに固まります。三角形を形成しますので、水平剛性を認めないことにはなりますが、現実には剛性が高まります。そういった微妙な所は、今回は計算上全て除外してあると思いますが、そういう所はブレースを貼る等、安全側に手当ができる可能性もあるということが言えるわけですね。

- <委員> 大屋根の野地板の隙間から見えている部材が気になっています。
- <部会長> それは、瓦棒で葺いている以上は、何らかの形でフラットな野地を貼ることになることから、普通の構造だったらおそらくは合板を貼っているのではないかと考えられます。普通は合板で施工しないと、アスファルトルーフィングも施工できませんし、瓦棒を葺く時に大変な施工になってしまいます。改修する時に蓋開けてみたら違う材料だったという事は、往々に起きますので、マイナス側をプラス側に変えていくといった対応が必要となります。
- <委員> 部屋の使い方も棟によって違っており、立派なエントランスが付いている南棟には、かなり大きな会議室やコンピューター室を2階に設けています。あの木造校舎にしては、壁のない空間が大きすぎるといった印象を受けています。隔壁の撤去等これは改修後の結果なのか気になります。
- <事務局> 改修以前にそういう工事を実施した様に聞いています。
- <部会長> 改修工事でそのようにしたと考えるべきですね。
- <委員> 教室2つ分を1つにしたよう感じなので、本来そこに耐力要素があったはずのものを、取り除いているのではないかと思います。
- <部会長> それは大きい問題ですね。それは診断書ではどういう検討がされているのでしょうか。
- <委員> これは診断の時に全部同じ軸組により設計されていたのですが、実際は少し違うということから見直されており、南棟の梁間方向の2階における数値がすごく低くなっているのは、多分そういったことが関係しているのではないかと考えています。
- <部会長> これは教室の使い勝手の問題と、絡んでくることであり、120㎡ぐらいの部屋ができてしまったということですね。
- <委員> どういう使い方をされているのかということと、併せて考えていく必要があります。
- <部会長> 用途と一緒に考えていく必要があります。パソコン関係の部屋は、そのくらい広い部屋でない駄目だということでもないと思います。
- <事務局> これだけの広さは必要ではないと思いますが、普通教室1室の広さでは難しいと考えています。
- <部会長> 今日見せていただいた中で、南棟の2階の東端は、学童保育に使われていましたが、そこは元々大きな部屋があったのですね。
- <事務局> そこは家庭科教室として使用していたため、広い教室となっています。
- <部会長> あの大きさでは足りないのですか。
- <事務局> 推測となりますが、あの広さがあれば何とかかなと思います。
- <部会長> もう少し適正な配置をすれば、今の問題も解決する可能性もあるということですね。追加の構造診断を実施する必要もあると思います。
- <委員> いづれにしても耐震性能が著しく低いということは変わりありませんので、補強設計時に見直していけば、改めて耐震診断をやるという必要性はそんなにないと思います。
- <部会長> 補強を適切に行えば、安全性の確保はできるといったお考えでしょうか。
- <委員> 基本的には合板を貼って強度を確保していけば、耐力が確保できます。ただ、無筋の基礎であることや、南棟については、梁間方向の教室小境の壁の下が束のようなもので荷重を受けている

だけなので、基礎についてはかなり大掛かりな工事をしないとイケないかなと思います。

- <部会長> 床をめくる必要がありますが、内側からの施工や基礎の増し打ちも可能となります。アンカーを沢山打ち込むことによって、構造設計指針の中では梁の増し打ちと同じようなことができると思うのですが、いかがでしょうか。
- <委員> 最近、住宅の補強で実施したのですが、コンクリートが無筋であっても、カーボンシートによる施工で耐力が2倍3倍になるということがあります。このことは、日本建築防災協会からもその工法が示されています。
- <部会長> 実は、私も山邑亭っていう大正のコンクリート造の建物でやったことがあります。コンクリートをきっちりと増し打ちした方が、しっかりと出来そうな気がしています。しかし、そういう実績があるということであれば、検討はしないとイケないとも思います。
- <委員> シートよりは、アンカーボルトを施行した方がいいのですが、増し打ちについては、接着が困難となる場合があります。
- <部会長> ジャッキで少し建物を上げないと駄目です。
- <委員> 曲げた形のアンカーボルトを、付けざるを得ないことにもなります。
- <部会長> プレートを置けばいいんです。プレートを置いて横刺しにして、もう一度土台を添わせて縫い付ければ可能です。
- <委員> 木造の幼稚園等で、基礎を増し打ちした場合、鉄筋のアンカーボルトをどうしても曲げざるを得ないので、それで協議となる場合があります。
- <部会長> むしろアングル材を横付けしてもいいです。もう一本土台を這わすということもできます。
- <委員> 校舎の場合は壁の高さが高いので、地震を受けた時に壁が倒れようとする、柱の脚部にかなり大きな引張力が出ます。壁の強度のためには、ホールダウン金物を必ず付ける必要があります。
- <部会長> アンカー部分をはつり、鉄筋が外にでてくるような方法もありますが、工費とも関係してきます。さらに、礎部分の洗い出しの雰囲気がかうまく残るかどうかが検討が必要です。
- その他、腐食の関係ではどのような状態なのでしょうか。南棟がやはり酷いのでしょうか。
- <委員> 写真では、南棟ではけっこう腐食している部分があります。
- <部会長> 屋根、小屋組み、小屋張りその他の部分の腐朽はどのような状況でしょうか。
- <委員> それほど劣化しているといった感じはありませんでした。土台については結構ジメツとしていて、問題がありそうなことも予想されます。
- <部会長> 土台は宿命的に腐るものですから、ジャッキアップして取り換えるということをいつもやっています。ジャッキアップと言っても、上げ屋のことでなく、ちょっとだけ上げる方法で行います。取り敢えず残そうと思えば残るという判断でよろしいでしょうか。
- 元の瓦葺へ戻すということは不可能でしょうか。やはり景観上は瓦葺の方がいいと思います。
- <委員> 元々は瓦葺だったのでしょか。
- <事務局> 平成元年の改修時に現在の屋根となっています。
- <部会長> 単位重量を測ってみてもいいと思います。私は、もし残すのだったら積極的な残し方というの

があると思います。

<委員> 何か理由があって、銅版葺としたのでしょうか。

<部会長> あの大きな屋根に似合う材料として、何があるのでしょうかね。アスベストを含まないカラーベスト等の類になるのでしょうか。

<委員> 今は、金属板でも色々な形ありますので、選択肢の一つにはなるかも知れません。

<部会長> 少し厚みのあるような感じのものもありますので、そのようなものでもいいかもしれませんね。

<委員> この診断報告書では、3棟とも同じ図面となっていることから、最初是一緒かなと思ったのですが、2階の床の組み方や土壁の配置も違います。

<部会長> 建設は、ほぼ同時にされているのでしょうか。

<事務局> 1年ずれぐらいで着手、竣工を行っています。昭和9年に着工し、12年に完了しています。

<委員> 棟3と棟4はほぼ同じであり、棟2がかなり違うということになっています。おそらく講堂があったので、講堂も違う時期に建てている可能性もあります。

<部会長> 実用性からの検討という事になりますと、水回り、騒音、バリアフリー、温熱環境、それから電気設備などの問題があります。これらは急に協議をすることはできませんので、3回目・4回目の専門委員会において検討したいと思います。

もう一つは、文化財としての検討ということから、構造補強をどうするかということと併せ、文化財的価値を損ねないような形の対処を、とっていくことが必要だと思っています。その中で気がかりなことは、小舞壁・土壁をどうするかという問題があります。これは文化財として考えた時には、ぜひ土壁は残したいという話が考えられます。しかし、これを合板張りにして、ブレース等を入れたら、強度的には飛躍的に上がりますし、重量も激減することになります。土壁については、どのように皆さんお考えでしょうか。

<委員> 土壁が使われているのは、南棟だけですよね。

<委員> 外周はどちらも、土壁となっています。

<部会長> 土壁も強度があるとは言われますが、実際には荷物になっているだけだという状態になっています。貫は入っているのですか。

<委員> 報告書では入っています。

<部会長> 貫は何本程度入っていますか。3本ぐらい入っていると、それに根釦がちゃんと付いていて、楔が打ってあるといのですが、はつてみないと分からないですね。

<委員> 貫は入っていると思います。13ページの中央にその資料があります。筋交の絵もあり、土壁も確認できます。実際、写真とちょっと違うので、この絵は現実とは違うのかなということも考えられます。貫はどんな一般木造でも必ず入っていますので、あるのはありますが、箇所数までは分かりません。

<部会長> 構造診断上、小舞壁は強度の算入はどのようになっていますか。

<委員> 接合係数でかなり数値は下がりますが、土壁が75mm程度の厚みということで、耐力が考慮されています。

- <部会長> 外周の方は、片面しか塗っていない状態なのでしょうか。
- <委員> 隙間の片面から、子舞竹が見えている写真があったことから、両面塗り込んでないという判断がされていると考えています。
- <部会長> 要するに裏返しはしてない。
- <委員> してないですね。そして、そこをどう補強するかという問題があります。
- <部会長> 応急補強の必要があるのかどうかということを検討したいと思います。応急補強はやらないといけないということでもないのですが、することも一つの方法ではないかといったご意見もありました。篠山小学校の補強方法について、誰かご存知ですか。
- <事務局> 外付けブレースによる補強です。
- <部会長> それは面補正を強めるだけで、転倒に対する効果は考慮していないということですね。
- <委員> 水平面にブレースではなく、垂直面の壁にブレースですね。
- <事務局> はい。そうです。
- <委員> 強度は上がることは上がりますよね。
- <部会長> 外部ですか。
- <事務局> 外部です。
- <部会長> 内側からボルトを貫通させないといけませんよね。
- <委員> 外部から補強するステンレスのブレースを使用する工法はあります。
- <部会長> 外から縫い込んだだけで、両側は止めてないのでしょうか。
- <委員> 止めてないですね。
- <部会長> その方法だと簡単にできますね。ただ下見板の上からは無理なので、そこだけ浮かせて取り付けることになりますね。効果はあるのでしょうか。
- <委員> 柱と梁を狙って打つということになります。
- <部会長> もし応急補強をしたら事務局としては、予算をどの時点で計上するのでしょうか。
- <事務局> 補正予算を要求することになり、簡易補強をするにしても設計委託は必要となります。
- <部会長> 入札からの一連の作業を考えると、結構時間がかかります。設計委託料自体、9月補正まで待っていると時間が経過していきます。そこから設計委託の発注になるのなら、補強工事は来年度になってしまいますね。
- <事務局> 工事自体はそうなります。
- <部会長> 27年度になってしまうわけですね。その応急補強の緊急度は、どう判断されますかね。
- <委員> 判断が難しいですね。
- <部会長> 必要ないとは言えませんし、実施可能な時期の問題もあります。
- <委員> 阪神淡大震災の後に、西脇工業高校や西脇高校に調査に入らしてもらいましたが、結局は地盤により被害の状況が変わってきます。西脇小学校の地形的な条件では、かなりの部分が切土側になり、グラウンド側が盛土である予想ができます。ただ、どこかで境界があると考えられます。
- <部会長> 今日、私もそれを見に行きました。

- <委員> 地盤調査について、木造校舎の部分で山側・下側という形で、最低でも4か所ぐらい掘って、地山かどうかの確認が必要となります。さらに、柱に米松を使用していると報告書にありますが、その強度が分からないので、サンプルによる強度測定が必要であると考えられます。
- <部会長> 教室が建っている所はどう見ても切土ですね。鉄筋の校舎を作った時には、ボーリング調査はしてないのでしょうか。
- <委員> 箇所数が少ないため十分ではないと思います。しかし、あれば非常にたすかります。この建物の外周を、最低4か所軽く掘ってみればどんな感じなのか分かります。
- <部会長> そのボーリングデータがあるかどうか確認していただけますか。多分N値は、10は超えているのではないかと思います。
- <委員> けっこう地盤はいいかもしれませんね。
- <委員> サウンディング方式では、無理なのでしょうか。
- <委員> 電圧で地盤が固いかどうかはわかりますが、地山かどうか分からないといった問題があります。ボーリングでなくても、地山かどうかは1mも掘ればわかるといったこともあります。
- <部会長> それから、柱は米松ですか
- <委員> 報告書は米松になっています。調べてみたら結構昔から、米松の輸入はあるようです。
- <部会長> 昭和は米松の使用が多いです。
- <委員> 調査される方がいいのではないかと思います、サンプルを取る方法等問題もあります。
- <事務局> 調査時には、材木屋さんを連れてきて、削って確認はされてきました。
- <部会長> 木材の強度は設計上いつ重要になりますかね。
- <委員> 補強すると決めた場合、耐震補強の計画書を提出するまでに分からないと、評価委員会でそこが疑問点だと言われる可能性が全くないわけではないと思います。
- <委員> 壁面で強度を出すように設計すれば、あまり重要ではないというようにも思います。
- <委員> 垂れ壁・腰壁の部分についての柱の強度を無視する前提で、耐震・精密診断するのであれば、そういった方法もあると思います。そうすると、剛性率とか偏心率の数値について、数値にも影響してきますので、正確な計算を行うことができないこととなります。
- <部会長> 米松に関しては、ここの米松ではないとしても、一般的なデータはあると思います。
- <委員> コンクリートの圧縮強度と同じで、やはり本来は調べる方がいいのかなと思います。
- <部会長> 調査しないといけない事項は、床下の基礎の状況となりますが、この確認はどうでしょうか。
- <委員> 1か月ぐらいかけて、現地調査をされていたので、その作業は必要なのかと思います。
- <事務局> そうですね。実際に調査をされた方をお呼びした方がいいと思います。
- <委員> 簡単に床下に入れる所はないでしょうか。事務局と一緒に入って見てきます。
- <事務局> 床下点検口について確認しておきます。天井の点検口は、追加で設けたと思います。
- <部会長> 応急補強の件に戻りますが、スケジュールとしてはどうなるのでしょうか。応急補強をしたとして、1年遅れ程度で、残すにしろ新築にするにしろ、予算化ができそうな気がします。
- <事務局> ボーリングについては、もし1棟でも残して他の棟を改築するとなれば、調査は無駄にならない

いと思います。応急補強は、その結果の確認も含めて判断していくということも考えられます。

<部会長> 何か所程度、調査を実施することになるのでしょうか。

<事務局> 改築する場合、その建物の位置がどこになるか決まっていないことが問題です。

<部会長> 校舎の西・東側、校舎前面と中庭の所を行い、合計8か所ぐらいをやれば十分だと思います。それが無理な場合は、後ろ・前・真ん中で6か所ぐらいは必要だと思います。

<事務局> 調査箇所を追加するのは可能ですので、校舎の位置が決まるまでは最小限の調査にできればありがたいと思います。

<部会長> 現時点では、最低4か所程度必要ではないでしょうか。もし、鉄筋校舎のボーリングデータがあれば、1番離れている南と中ぐらいの所があれば、大体の傾向は出てくるでしょうね。

<事務局> 昭和42年の図面があれば、ボーリングデータが入っていると思います。

<委員> その当時となれば、実施していても多分図面には添付してないと思います。

<部会長> とにかく、データの有無を事務局で確認していただき、その結果も含め判断していただけますか。そして、次回までにメールでもでも検討結果をお知らせいただければ、方針がすぐに決まるかなと思います。応急補強について、水平方向の応急補強は必要ないですか。

<委員> しなくてもいいような気がします。

<部会長> ただ垂直方向では、棲側の外周と長辺方向と短辺方向の外周と間仕切りの所も必要でしょうか。

<委員> 真ん中が一番危ないところですね。

<部会長> 教室の後ろ側には、物入れを作られており、黒板とその下にかばん置きがあるので、補強はなかなか難しいと思います。

<事務局> 一般的には、どこの学校にも黒板があって、後ろには物置の棚があります。

<部会長> ですからブレースはちょっと無理ですね。どうしましょうか。

<委員> 通路部分は、できないのですか。

<部会長> 通路部分は可能ですね。

<委員> 桁行きについては、外壁で補強ができるわけですね。

<委員> 梁間方向が、どうしても外壁に入れないとできないのですね。

<部会長> 通路の所が問題です。

<委員> 階段の所とかですか。

<部会長> 真ん中の通路の両側だけはできますね。そうすると25m位梁行方向のブレースはないということになりますが、それでも全くないよりはいいと思います。できる範囲では手を尽くすという考えでいいのではないのでしょうか。2階天井裏の水平方向のブレースは、必要ないでしょうか。

<委員> 水平面補強までやり出すと、けっこう大掛かりになる気がしますが。

<部会長> 武道場の方でやったことがあり、小屋裏に上がってブレースを引っ張ればいいだけなので、それほど難しい仕事ではないです。むしろ外周の方が、結構難しいと思います。内部は取り外せば元通りになりますが、外周は柱まで大分距離がありますので、効きがあるのかどうか施工に注意が必要です。篠山小学校と同じ方法で可能かどうか不明です。時代的に、篠山小学校の方が、外

壁が薄いのではないかと思います。下見板が貼ってあるだけじゃないかなと考えられます。

<事務局> 外壁はモルタルだったと思います。

<部会長> モルタルでしたらもっと薄いですよ。その辺効き具合はどうなのでしょう。

<委員> その厚みによって、工法を選択できると思います。

<部会長> 場合によってはやらない方が良かったといった事もあり得ます。ちゃんと桁とか梁まで届いていけばいいのですが、そういったことは、事実検討をやるという前提で進めていくということでしょうか。

検討委員会で、子どもたちにもアンケートを取って欲しいというご意見がありましたが、市でこれまでアンケートを実施したケースでは、その対象をどの様にされましたか。

<事務局> ランダムで抽出することもあります。

<部会長> 構造とかそういう専門委員会として、何かアンケートとしてお聞きしたいというような内容はありますか。特にご意見が内容ですので、これは私の方と事務局の方でやらせていただきます。

今日の耐震診断に対する補足は、ないでしょうか。

<委員> 我々のデューティの確認をさせていただきたいのですが、この第1回・第2回・第3回とある第1回の内容では、「保存・補強の検討」「応急の検討」となり、その報告書作成になっていいますが、第1回となる本日は、それらについて議論し、その議事録が作成され協議内容が整理されると思います。そして、第2回は改修案素案の作成となっておりますが、次回の会議で作成が可能なのでしょうか。

<部会長> 先ほどご指摘いただいた使い勝手の問題も決まってない状態ではなかなか無理だと思います。校舎を全部残すのか、全部残さないのかではなくて、部分的に残すことや部分的に改修するといったことも選択肢の中にあるようにも聞こえました。

<事務局> それにつきましては、今後の検討材料になると思いますが、部会長の方からもお話しがございましたように、教職員のアンケート結果を次回の会議で報告していただくといったこともあり、検討委員でも協議していくことになるかと考えています。

<部会長> すべてここで解決できるというものでもなくて、検討委員会の方で方向付けをしっかりとした上で、技術的問題があればここで検討をするということになると考えています。あくまで本日の資料は事務局案ということでご理解をお願いします。

<委員> 構造的な技術の検討ということでは、技術的にはそんなに難しい話ではないと思いますが、法適合性という観点では、特に防火が技術的に大きな障害になるかどうかという事も確認しておく必要があるのではないかなと思います。

<事務局> そのことにつきましては、3回目か4回目に、協議してはどうかと考えております。

<部会長> 小学校は特殊建築物ですので、2階の2方向避難は確保されているとして、防火基準については何がありましたか。

<委員> 消防法の関係では、準耐火構造にするといったことがあります。

<部会長> そうなりますよね。

<委員> 隔壁の関係が大きく影響しますね。

<部会長> それでいくと既存不適格となるわけですね。

<事務局> こちらも事前に県の土木事務所と調整しましたが、なかなか中身が詰まってない中で判断が難しい点もあり、内装製品とか防火壁といった観点で考えて欲しいという意見はいただいています。

<部会長> その点では、土壁は防火壁となりますが。

<事務局> 廊下と間仕切り間の壁が、現状では法規の基準を満たしておらず、その対応が必要であるというのを聞いています。

<部会長> この報告書でも、天井裏まで防火壁は上げましょうというのは書かれています。ただ、廊下は垂れ壁ぐらいしか対処できないと思います。性能評価をしても、廊下と教室との間のガラス窓が難しいと思います。防火性能の専門ということでは、私が知っている方では早稲田の長谷見先生などであり、あの方は数々の木造の防火の認定という事を進めてこられているので、必要であれば長谷見先生をお呼びして、意見を聞くこともできるかなと思います。もう少し近い所では、立命館大学にそういう方が何人かいらっしゃいます。消防との協議はされているのですか。

<事務局> まだ協議はしておりませんが、新年度にはコンサルタントへの業務委託を予定しており、業務を進めていく予定です。消防法の関連につきましても、その中で検討していければと思います。

<部会長> 法適合性の確認となりますね。

<事務局> 法適合性につきましても、専門の先生をオブザーバーとしてお願いすることも可能であると考えています。

<部会長> 本日の協議をまとめますと、保存に関する技術検討としては、前回の評価書の中でいくつかの問題は指摘されているということですが、補強をすれば保存は可能ではないかというご意見をいただきました。ただその判断のためには、基礎等いくつかの重要な事項は確認していかないといけないといったご意見をいただきました。そして、委員からご指摘がありました法適合性についてはかなり重要なテーマですので、今後、項目ごとに検討しないといけないと思います。特に避難と防火の問題については、消防の方の意見もお聞きする必要があります。できれば八上小学校と篠山小学校においてどういう解釈をされているのかについて、事務局の方で確認していただけます。

閉 会

<部会長> 他に意見がなければ、本日は閉会といたします。